

# 令和 かわら版

第12号  
諏訪形自治会  
会長窪田善雄

## 金窓寺川調整池がついに完成！

十月一日に完成式を行いました

金窓寺川は、今まで大雨による氾濫を繰り返してきました。そのため、歴代の自治会役員、防災協議会の皆さん、まちづくり協議会の皆さんなど多くの方々が大雨のたびに出勤してスクリーンに引っかけたゴミの除去や土のうの設置などに尽力していただきました。



そのような中で、宮下省二市議をはじめとする地元の方々の努力と土屋市長をはじめ市の関係者の理解のもとで、令和二年に「城下地区排水対策事業」(実施計画で事業費五億二千万円)の最初の事業として、金窓寺川調整池の整備工事が始まり、令和四年九月末に悲願の調整池が完成し、十月一日(土)に現地で完成式が行われました。



用地を提供してくださった小林和夫様、小林久美子様、柳澤寛様、工事に全面的に協力してくださった金窓寺様をはじめ、ご協力いただいた皆さまに感謝申し上げます。

これまで金窓寺川の氾濫を防ぐためにご尽力いただいた方々から完成に当たっての感想をお聞きしました。

- ・立派な調整池を作っていたと思っていましたが、これで安心して過ごせるようになる。
- ・大雨のたびに水がつくのではないかと心配していた。スクリーンの枝を除去しなればならないと、声を掛け合っ

て雨の中で作業をしてきた。そうした心配がなくなり、地域の災害が減ることになり、本当に良かった。

- ・調整池が形になってからまだ大雨を経験していない。いざ水が出たときにどうなるのかを注視していきたい。水が出た時のゴミの処理も今後の課題となる。



なお、上田市都市建設部土木課による地元説明会における主な質疑応答は以下のとおりです。

(質) ライフカメラの設置はどうか。  
(答) 調整池の完成後、設置を検討している。

(質) 調整池の泥上げについて、梅雨前と台風シーズン前に市が二回実施していたが、これについては引き続きお願いしたい。  
(答) これまで通り、土砂の堆積状況を見て撤去作業を実施する。

(質) 調整池に子どもなどが入れないように、フェンスなどを設置してもらえないか。  
(答) フェンスについて東側は設置済み。北側は高い擁壁があるので入れない。今後西側と南側に設置をする。調整池の外周を囲む

「侵入防止用のフェンス」は子どもの身長よりも高い「五メートル」は調整池を囲む内側の「転落防止用フェンス」は高さ一メートルとする。また、入ってはいけない旨の注意喚起看板を設置する。

(質) 調整池周辺の草刈りについて。  
(答) 現在、年二回地元の皆さまに金窓寺川の草刈りをお願いしている。今後はお手数をおかけするが、併せて調整池周辺の草刈りもお願いしたい。

## 金窓寺川周辺の除草作業

金窓寺川調整池完成式の翌日の十月二日、金窓寺川周辺の除草作業を行いました。前日まで、式典のために何日も準備をしてくださった方々も何人も参加していただき、二十二人で作業を行いました。



秋晴れの下、暑い日となり、草の量が前回より大変な作業になりました。見違えるようさまたけい、協力をお願いしました。ご協力ありがとうございました。

なお、この春の草刈りにはボランティアの参加を希望しています。本年も何人かの方々にご協力をいただきました。来年以降も多くの皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。



## 城下小学校の学童農園収穫体験

城下小学校では、体験学習の一環として、五年生の子どもたちが学童農園で米作りを行っています。

地域では農業委員の皆さんや、諏訪形まちづくり協議会の皆さんが中心となって、毎年学童農園の学習活動に協力しています。今年も、田中道祖神前にある窪田和さんの水田をお借りし、春には農業委員の片岡さんや手塚さんの指導のもとで田植えをしまし



収穫の秋を迎え、九月二十六日には稲刈りを行いました。当日は、諏訪形まちづくり協議会の呼びかけで、地域の皆さん十人ほども参加して作業を手伝いました。

子どもたちは慣れない作業に戸惑いながらも、大人たちに手助けしてもらいながら一生懸命に稲刈りをしました。きっと楽しい収穫祭ができるものと思います。

## 令和四年度 自治会懇談会

十月六日(木)、急に寒さを感じるようになった中、上田警察署の額(こうけつ)防犯係長をお招きして「だまされない・特殊詐欺」という内容で講演をいただきました。

上田地域は交通の便が良いこともあって、県下でも一番被害件数が多い、しかも今年になって特に増えているとのことでした。令和四年は上田警察署管内の被害は九月まで十七件、被害額は七六二万円とのこと。被害に遭った方に聞くと、「特殊詐欺について知っていた」「九三%」「自分はだまされなかった」「七六%」とのこと。「人間はだまされ生き物である。」と注意してほしいとお話でした。

これから年末に向かって、犯罪組織にもノルマがあり、特殊詐欺が増える恐れがあるとのこと。「お金」とか「キャッシュカード」とか「還付」とかいう言葉があったときは、上田警察署(電話二一〇一〇一)に連絡する、または家族、知り合いに相談するなどしてください。





諏訪形誌活用委員会企画

第五回 『諏訪形誌』を歩く ウォーキングイベント

公立大学法人 長野大学

「淡水生物学研究所」を訪ねる

九月二十五日（日）、「諏訪形誌活用委員会企画 諏訪形誌を歩く 第五回ウォーキングイベント」が実施されました。今回は諏訪形公民館から諏訪形グラウンド、六十間堤防を「見学しながら」小牧の「長野大学淡水生物学研究所」で施設見学と箱山教授の講演と内容で企画しました。当日は二十四名の皆さんにご参加いただき、台風一過の晴天の下、往復約五キロメートルのウォーキングで初秋の半日を楽しみました。

午前九時、諏訪形公民館を出発。ソフトボール大会（？）で賑わう諏訪形グラウンドの脇を通って、常田新橋に向かいます。

常田新橋下をくぐると、「六十間堤防」の西端に出ます。この堤防は一

八九八（明治三十一）年の洪水でこの地域が大きな被害を受けたことから、小牧の人たちが中心となって千曲川から丸石を運んで築いた、と記録されています。この建設には諏訪形の人たちも参加しました。できた当時の長さにちなんで「六十間堤防」の名で呼ばれていますが、堤防はその後拡張され、現在では二〇メートルほどの長さになっています。上の写真は常田新橋から見た現在の六十間堤防です。なお、地元の方には「高堤防」「やっくら（櫓）」と呼ばれているとのこと。



「六十間堤防」の東端にあたる場所に「避水記念地」と彫られた碑があります。名称や場所から考えて当然、堤防や防災に関するものだと思います。この碑については詳しくはわかりませんが、ご存じの方はお知らせください。諏訪形誌活用委員会までお知らせいただけましたら幸いです。

からさらに東へ、「淡水生物学研究所」に向かいます。



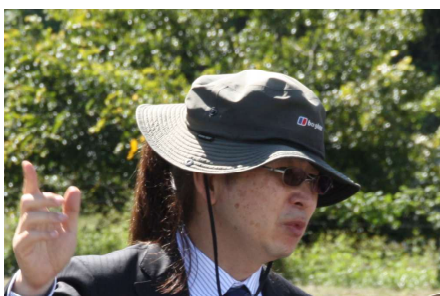
淡水生物学研究所（旧淡水区水産研究所）  
上は一九五六（昭和三十一年）年の様子（写真提供は増澤弘さん）  
下は現在の淡水生物学研究所



現在の「長野大学淡水生物学研究所」は一九四〇（昭和十六）年に「農林省水産試験場上田試験地」として開設以来、何度かの組織改編などが行われて、二〇一九（平成三十一）年からは公立学校法人長野大学の施設として運営されています。今回は所長の箱山教授に講演と施設案内をしていただきました。なお、今回の施設見学に際しては宮下省二市議にたいへんお骨折りをいただきました。ありがとうございました。



まず、北沢顧問から歴史的背景の説明があり、上田市マルチメディア情報センターのアーカイブから「減少する千曲川の魚 ウグイの人工繁殖始まる（信越放送・一九六五年）」を視聴した後、箱山教授から千曲川水系における河川管理や生物の遺伝的多様性の問題などについてのお話を伺いました（難しかったです）。なお、「長野大学淡水生物学研究所」の地域貢献を目標とした具体的な活動や研究の内容については、本文末のURLをご参照ください。その後、施設見学をさせていただきました。



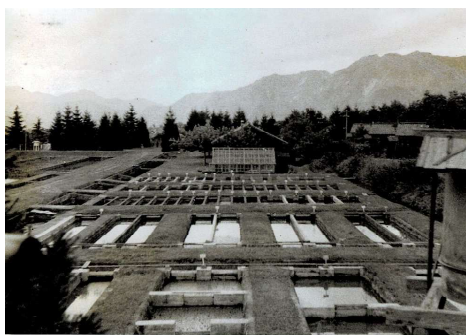
← 箱山 洋 教授

この施設の完成からかなりの時間が経過していること、千曲川から水を引くだけではない、水路などは、魚類「ビオトープ」としての機能も持ちつつあるというお話はなかなか興味深いものでした。

また、最近では近畿大学との連携で「チョウザメ」の繁殖にも取り組んでいるとのこと。上の写真はチョウザメの養殖池です。雨の後で水が濁っていて、チョウザメの姿が見られなかったのはちょっと残念でした。

屋近く、帰途につきました。雨続きだった後の貴重な晴天で、あちこちの田んぼでは稲刈りの真っ最中です。そんな田園風景の中を小牧山を見上げながら諏訪形公民館に向かいました。

今回の資料作成などにあたっては、「農林省水産試験場」だった当時にこの施設で働いておられた増澤弘さんから多くの情報や資料をいただきました。これらの資料やお話しをいただいた後日、諏訪形誌web版上でまとめさせていただきます。左の写真も増澤さんからご提供いただいたものです。上は一九五六（昭和三十一年）年当時の試験場の様子です。うしろに虚空蔵山が見えていることから、試験場東側からの写真であることがわかります。また、下の写真は信濃毎日新聞一九五七（昭和三十一年）年九月三日に掲載された写真と同じ時に撮影されたものと思われる。当時の明仁親王が釣りをしている姿が見られます。増澤さんの姿もあります。



ご参加いただいた皆さんの声

- ・ 本日の企画は非常に良かったです。千曲川の恵みとともに生きてきた諏訪形住民として、魚のたくさん住める環境の再生について淡水生物学研究所の活動と成果におおいに期待します。
- ・ たいへん楽しく歩いて、山を見て、田んぼを見て、秋の香りの景色を堪能しました。山好きな私はとてもうれしく思いました。
- ・ 知らないことを勉強して、わずかですが知ってうれしかったです。ありがとうございました。
- ・ 淡水生物学研究所の説明をしていただき、すばらしいと思いました。
- ・ 「地域の誇りとなる、あって良かったと言われる研究所にしたい」淡水生物学研究所の長野大学教授箱山所長の言葉が胸に染みました。

公立学校法人長野大学 ホームページ

<https://www.nagano.ac.jp/>

公立学校法人長野大学 淡水生物学研究所 ホームページ

<https://www.nagano.ac.jp/outline/facilities/ifb/>

諏訪形誌活用委員会 ホームページ

<https://suwasata.ueda-common.net/>